



ふれあい'なのかいち



「ふるさと史跡巡りⅡ」に参加して

7-4 内山 将也

七日市場に越してきて半年ほど経ちました。静かで自然の美しいこの地区で、ご近所の皆様にも日頃から温かく接していただく中で、「七日市場」のことをもっと知りたいと思い、参加させていただきました。

我が子との散歩で通る道、見かける石像や堰、社の地形的、また歴史的背景をお聞きし、この地で確かに先人たちが

①

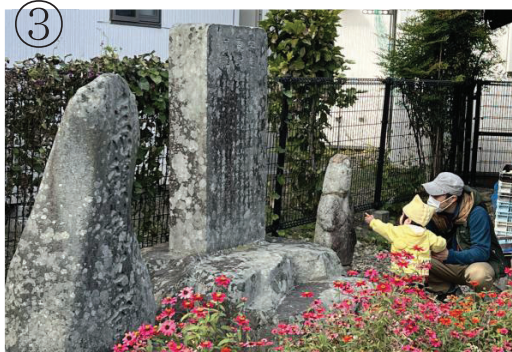
がより豊かに生きようとした営みの上に、私達がいることを実感しました。今も中萱堰と呑堰は7・3の水量で利用されていることから当たり前前に見かけるものですが、過去の功績と今をつなぐ貴重な文化財なのだと感じま

した。学び多い半日となりました。講師の先生方、ありがとうございました。運営の役員の皆様には、子連れでの参加ということもあり様々な面でご配慮いただいたことも併せて感謝申し上げます。

②



③



「ふるさと史跡巡りⅡ」【2022年10月30日】

- ① 中萱堰分水工の水神石碑
- ② 堰下の大けやきと社神宮
- ③ 西木戸観音原の蚕影神社



みやび会敬老祝賀会
【2022年9月19日】

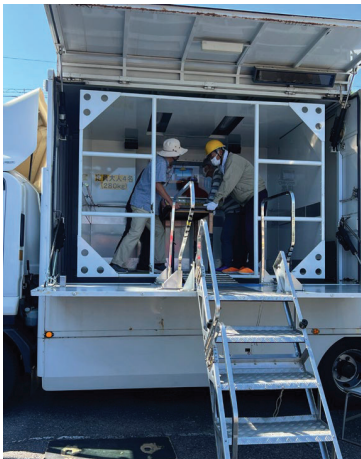
「昔を懐かしむひととき」

公民館総務

九月十九日、みやび会敬老祝賀会が開催され来賓の方々を含む約三十名が参加しました。

はじめに、今年ダイヤモンド婚を迎えられた松尾様ご夫妻にお祝い状が贈呈され、松尾様からは感謝のお言葉がありました。

会場内には、当地区から太平洋戦争に出征し亡くなられた方々と、その戦争を今に伝えるために作成されたパネルが並び、曾根原孝和さんからご講演をいただきました。続いて、松澤静司さんのハーモニカにより懐かしい曲が次々と奏でられ、「信濃の国」の演奏では皆さんの歌声も加わり、久しぶりの再会に笑顔が広がりました。



地区防災訓練
【2022年10月16日】

「地震の揺れを体験（地区防災訓練）」

代表区長 木船 章

十月十六日に、松本市梓川消防署のご協力のもと、地区防災訓練が行われました。コミュニティセンター前に設置された地震体験車で、机にしがみついていないと飛ばされるほどの大きな揺れを体験しました。その中でも糸魚川静岡構造線の想定地震は、いろんな方向の揺れが混在していて怖さを感じました。また、消火器の取扱いも体験しました。

地震が発生したときに一番大切なのは、「自助」自分の身を守る、自分自身が怪我をしないこと。「共助」周囲の人で助け合おう。「公助」行政の助け。その中で救助に最も必要なのは「共助」周囲の助け合いだと思います。いざというときのために、家族が三日間過ごせる水と食料をローリングストックしておく目安だそうです。

テーマ「人が大切にされる地域を目指して」
～気づき、考え、認め合いから～



人権学習講演会【2022年11月13日】

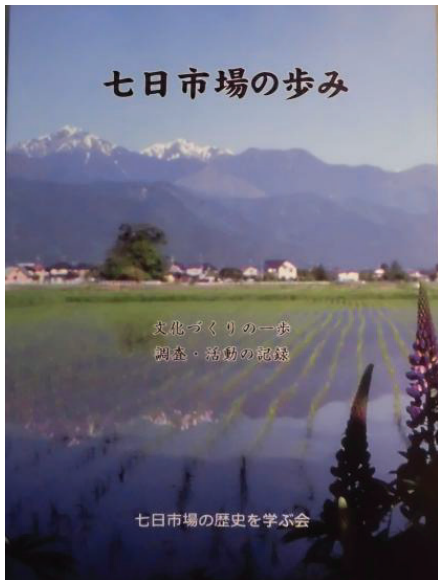
「人権学習講演会」が開催されました

安曇野市人権教育推進委員 寺沢 則彦

十一月十三日に安曇野市人権教育指導員の池田安宏様を講師にお迎えし、人権学習講演会が開催されました。

だまし絵といわれるイラストを例に「人によつて色んな見え方があり人間の脳が間違えて判断してしまうこともある。」との説明がありました。

当たり前や思い込み。多数が正しいとは限らない。昔のふつうと今のふつうは違う。とお話を聞き、自分の何気ない言動が人権を貶める又は差別につながっていないか、自分の言動が周囲にどのように伝わるのか、常に自分の想像力を高めて考えていきたいと感じました。



この冊子は、「七日市場の歴史を学ぶ会」が二十年に亘り私たちの住むこの地区の歴史を丹念に調べ、まとめ上げた本です。昨年末に皆様のお手元に届けることができました。

十七世紀に、松本藩領長尾組から七日市場村が独立。そこから現在に至るまでの三百有余年、先人たちが築き上げてきた歴史を様々な視点からとらえ、詳細に記しています。

過去を知ること、未来が見えてくる。是非手に取り目を通していただきたい力作です。

『七日市場の歩み』が
刊行されました

公民館総務



朝から雪が舞う寒い日曜日となった十二月十八日「七日市場の歩み」刊行発表会に参加し、「歴史を学ぶ会」の曾根原会長のご挨拶と三郷公民館長の藤松先生の記念公演「地域づくり 文化づくりのすすめ」を拝聴しました。七日市場には、「つながる力・地域をつくる力・人づくりの力」が備わっていると云われて力強く感じました。

『七日市場の歩み』刊行発表会に
参加して

公民館総務部

『七日市場の歩み』刊行発表会【2022年12月18日】

✓「いま、これが気になっています！」

前回は、シジュウカラが車のサイドミラーに映ったわが身をつつく話をしました。実はその後、もう一つ発見があったのです！ シジュウカラについて調べた中に、「繁殖期はつがいで行動し、オスはテリトリーを守るために攻撃的になる。」というのがありました。何度かサイドミラー攻撃を目撃しているうちに、それと繋がる【あることに】気が付きました。なんと、オスがサイドミラーを激しくつついている近くには、それを見ているメスがいたのです。

あたかも、「あなた、早く侵入者を追い出して！」か、「あなた、頑張っ！！」と言っているかのように。それに気づいてからは、頑張るオスがいとおしく感じられるようになりました。

編集人



今回、シジュウカラのつがいの写真は撮れなかったので、我が家に来た他の鳥たちを紹介します。

左から：メジロ、しめ、コガラ、キジバト、ヒヨドリ(他には：ヒレンジャク、オナガ、モズ、ツグミ、カワラヒワ等)

七日市場の歴史(第五十五回)

市場があった頃のこと③

曾根原 孝和

史跡巡りから 昨年十月、七日市場の北東部で市場があったと伝わる地域の史跡巡りをしました。

参加者は二〇人で、史跡を一回りした後は「知らない道を通り、歴史ある社や堰等を回る中で、古きよき七日市場の土地を巡ることが出来とてもよかった」「気付かずに通り過ぎてしまいそうな場所に延命地藏様、ドバシタの水神様、社宮司と貴重な歴史が残されていて、説明されて少し利口にさせてもらった」など感想が寄せられました。



延命地藏菩薩像

延命地藏菩薩像 一番先に拝観した延命地藏菩薩さんには、民話があります。当日はお伝えしませんでしたので一部を紹介します。おたねばあさんが出てきます。

「どうかお地藏さま、おねがいします。嫁のお産が軽くいきますように、なにとぞおねがいします」小声でいっしんに拝んでいる声に、おたねばあさんは人ごとに思えません。それは家の嫁が何度も流産してしまい、お地藏さんをお願いしてやっと子どもを授かったのです。

願いをかける人は、それから毎日朝早く来ていました。…ふと気がつくと、お地藏さまに新しい赤いじゅばんがかけられていました。きっと願いがかなったのでしょう。

〔三郷の民話〕郷土出版社より)

親子の参加者 新しく七日市場に見えられた親子四人が参加くださいました。上のお子さんは保育園児です。皆と元氣よく歩き、最後の見学地西木戸観音原にきました。

ここでは、九基の石仏などや蚕影神社を自由に観ました。その時お子さんとお父さんは、奥の方に立っていた聖観音菩薩像の近くで、指さしながら語り合っていました。とてもほほえましいひと時でした。

「歴史の会」で編集しました『七日市場の歩み』に、地区の約六〇基の石仏・石神等の写真、大きさ、地図上の位置などが示してあります。冊子を見ながら石仏などと語り合ってくださいとうれしいです。

編集後記

曾根原先生の七日市場の歴史を読み、ふるさと史跡巡りに思いをはせる。昔の方々の暮らしがどのようなものであったのかと想像すると、今よりゆつくりとした時間の流れであったように感じる。哲学者内山節さんのエッセーに、縦軸の時間は直線的に進み変化や成長が求められる時間で、横軸の時間は円環の回転運動をしている、つまり「一年の時間が過ぎ去ったのではなく去年と同じ春が帰ってきた」と捉えるそうである。

「山里に暮らす人々は縦軸と横軸の時間という二つの時間の中を生きている」という言葉が腑に落ちた。

時代と精神を継承するためには、時間の捉え方も一つの大きな要素であると思った。

公民館主事 太田

七日市場地区公民館報
ふれあい なのかいち

Vol.21 No.3 第60号

【発行日】2023年2月12日

【発行所】七日市場地区公民館

【発行人】寺沢 則彦

【編集人】加藤 崇雄

【監修】太田 隆

【編集委員】

柴田 佐恵美 (文化部)

紅林 奈美夫 (体育部)

丸山 一郎 (生活部)

花岡 正明 (ボランティア)

松尾 常德 (ボランティア)

丸山 博幸 (ボランティア)

【HP監修】

松尾 学 (ボランティア)